

若手育成の悩み



金 田 隆

2017年度から中国四国支部の支部長を務めさせていただくことになりました。私が日本分析化学会に入会したのは、修士課程学生時に初めて支部の学会で発表をするためでした。当時は、学会が大学の先生、研究所や企業の方々のご尽力により運営されていることなど知る由もありませんでした。修士学生から博士学生、大学助手となるにつれて、先生方の学会でのお仕事を知る機会は増えてきました。学生時代を北海道支部で過ごし、その後、九州支部、中国四国支部に移り、現在に至っております。

本部や支部では若手の育成を目指した多くの事業が行われています。例えば、私が在籍した各支部ではいずれも若手のセミナーが開催されています。また、北海道支部と九州支部では支部の奨励賞を設けており、若手の育成に力を注いでいます。私自身も、これらの事業の恩恵を受けてきました。北海道支部で開催される緑陰セミナーは、少人数であるが故、大学の先生と大学院生の距離が近く、学生が若い先生方と交流できる大変有意義な場でした。また、九州支部の分析化学若手の会夏季セミナーでは、九州各県の同世代の先生方と知り合う機会を得ることができました。

これらの若手セミナーでの出会いは、私にとっては貴重な経験であり、将来にも大きな影響を与えるものでした。この点では、本来の目的である若手分析化学者(博士課程学生や若手教員)の育成に十分な効果を発揮していると感じます。一方、若手研究者の人口を増やすためには、博士課程への進学者を増加させることが重要な課題です。では、博士課程の進学者数を増やすにはどうしたらよいでしょうか。私自身は実験が成功したときの楽しさと学会発表や論文発表を通じて自分の研究成果を世界に公表できることに喜びを感じたことが、博士課程進学への動機でした。しかし、大学教員ポストの減少や奨学金の返済問題を抱えた今の社会情勢、経済状況の下で、どうしたら学生が博士課程進学に魅力を感じてくれるのか、現在のところ妙案はありません。

時代とともに全国的に「分析化学」の名前を残す研究室は減少し、分析化学会会員も減少しています。中国四国支部に属する岡山大学は総合大学であるにもかかわらず、現在、理学部と薬学部以外に、中国四国支部の活動に携わっている先生はおりません。他の学部でも分析化学の教育は行われているのですが、担当教員の研究発表の場は分析化学会ではないのが現状です。岡山大学に限らず、分析化学分野で活躍されていた先生方の研究室が他分野の研究室に変わってしまったと聞きます。この状況を打破するためには、分析化学を専門とする博士を育成し、分析化学に携わる研究者を増やす努力が必要です。学生が博士課程に進学しない大きな理由は、経済的な問題や学位取得後の就職に対する不安にあるようです。研究や勉強が原因ではないことは幸いです。微力ではありますが、できるだけ多くの学生を年会や討論会に参加させ、論文発表させることで、学会活動と研究の楽しさを知ってもらい、分析化学分野の若手研究者を育成したいと考えています。

〔Takashi KANETA, 岡山大学大学院自然科学研究科, 日本分析化学会中国四国支部長〕